

1. 調査速報

6月から開始した村北遺跡の発掘調査も、残りわずかとなりました。「発掘調査だより12月号」をお送りいたします。

現在、村北遺跡ではD・E区の調査が完了し、B区の調査を進めています（裏 下層概略図）。

E区では大小合わせて4か所の穴を検出しました。地震による影響で砂が混ざっており、地震の際にできた陥没である可能性が考えられます。遺物は縄文土器や石器がわずかに出土しましたが、C区の調査時、遺物はD・E区に向けて多くなる傾向が認められましたが、実際にD・E区を調査した結果、予想したほどは出土していません。東に向けて遺物量は少なくなることが分かりました（写真1）。

11月よりB区の調査を開始しました。縄文時代中・後期の地層（下層）まで徐々に掘り下げながら調査を進めています。現在、縄文時代中・後期の地層で検出した遺構の調査を進めています。

B区は農道が通っていた場所で、調査区の中なかでも標高の高い地点にあたります。そのため、縄文人が生活しやすい場所であったと考えられます。調査を進めた結果、多くの縄文土器が出土しました（写真2）。磨製石斧や凹石といった石器も出土しています（写真3）。これらの出土遺物は縄文時代後期前葉（約4,000年前）のものが主体になります。

2. 調査を通じて（これからの課題）

これまで2年間に渡って村北遺跡の発掘調査を進めてきました。B区の調査ですべての発掘調査が完了します。

現在調査を行っているB区では、たくさんの遺物が出土していますが、集中する地点とそうではない地点があります。この極端な遺物の出土傾向は調査区全体を通して同じです（下層概略図）。

ただ、それぞれの地点で年代が異なるようです。このことは、以前にもお伝えしたように、縄文時代中期前葉～後期中葉（約5,000～3,500年前）の間に、人びとが短期的な滞在を繰り返していたことを示していると考えます（「たより9月号」参照）。今後、地点ごとの年代を明らかにし、村北遺跡で約1,500年の間に人々が何をしていたのか調べていきたいと思っております。

今号で発掘調査だよりは終了します。これから、基礎整理事業を行います。新しい成果がわかり次第、あらためてご報告します。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり、近隣の方々には調査にご理解をいただき、多大なるご協力をいただきました。ありがとうございました。



写真1 E区 調査状況（南西から）

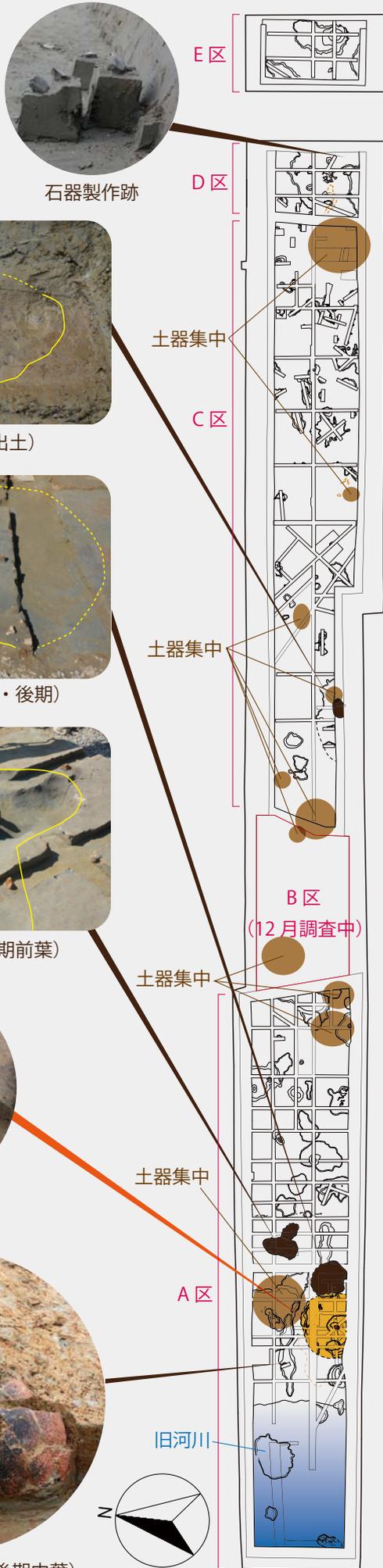


写真2 B区 土器出土状況（南東から）

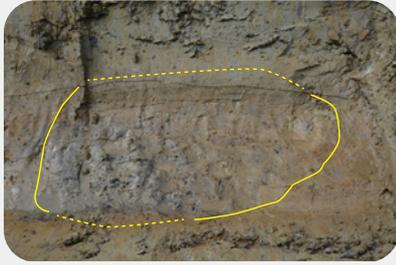


写真3 B区 土器・石器出土状況

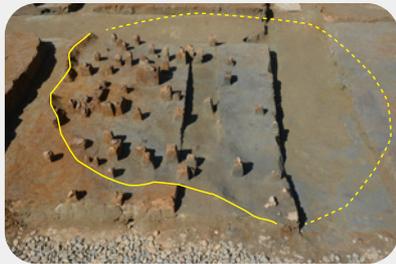
村北遺跡
下層 概略図



石器製作跡



土坑 (クルミ出土)



土坑 (縄文時代中・後期)



土坑 (縄文時代後期前葉)



竪穴住居 (炉跡)



埋設土器 (縄文時代後期中葉)



E区 (南から)



D区 (南から)



C区 (南から)



B区 (南から)



A区 (南から)